

ワンポイント操作法

白いテープ位置で直ぐに使用できますが一度この操作法をご覧ください。

下記はワンポイント操作法です。この設定で十分に操作が可能ですが使用前に一度添付の取り扱い説明書もご覧ください。

標準の24cm径アンテナで探知目安としては敷き鉄板で最大1m程度です。それ以上の場合は40cm径アンテナ(オプション)の使用がお勧めです。深さの状況により選択してください。

- 1) コントロールパネルのTUNERスイッチをBAT(バッテリー)モードにして下さい。80~100の間であれば電池を交換する必要はありません。80以下であれば新しい電池(単3電池を8本)と交換してください。(発送時は新しい電池が入っています)新しいアルカリ電池で通常約20時間使用できます。
- 2) MODE スwitchを HIGH にしてハンドルについているトリガー(引き金状のスイッチ)を一度ひいてください(引いたら勝手に戻ります)。*土などにミネラル分などが含まれていない場合 MODE は LOW にして下さい。なお、LOCK 位置は鉄製のゴミなどが多い場合に使用してください。通常使用は HIGH で大丈夫です。

*土中の鉄分や不純物が少ない場合は LOW でやった方が、より深い探知が出来ます。但し LOW 設定の場合、何もないところで金属に反応したかの様に反応する場合があります。最初は HIGH で使用し慣れてから LOW を使用してください。(この探知機の場合、HIGH は高感度、LOW は低感度の意味ではありません。地中のミネラル分が多い場合は HIGH、少ない場合は LOW の意味です)

- 3) コントロールパネル右側にある TUNER スwitchを調節して、ピーというスピーカーからの音が最低で聞き取れる位置に合わせてください。
* コントロールボックスにあるヘッドフォンジャックにヘッドフォンを入れてお使いください。深い場所にある金属の反応は非常に小さな音で反応しますのでヘッドフォン(オプション)の使用がお勧めです。
- 4) 次にループ(先端の円盤アンテナ)を腰くらいの高さに上げて AUTO GEB スwitchを AIR 位置に指で上げて数秒すると "ピー" となりますので鳴ったら下の5)の操作をします。
- 5) ループを地面より5cm程度の高さに下げて GND AUTO TRAC に合わせ "ピー" と鳴らせてください。同時に少しだけメーターの針が動きます。

6)これで探知作業に入れます。ループを左右にユックリ動かしながら金属が探知するまで動いてください。金属を探知すると "ピー" となります。

* 動かし方は添付の FINE TUNING & GENERAL USE, CONTINUED 参照

右の写真の様に、先端の円盤を地面から約4~5cm上を左右にゆっくりと振ってください。この時の円盤を振るスピードは右から左まで(その逆も)約2秒程度で一振りして下さい。それから円盤と地面の距離はいつも一定にして並行に振ってください。



インストラクション マニュアル

SIERRA MADRE用

一般的な使用方法:通常モードで使用するには、まずTUNERスイッチをBATモードにしてメーターをチェック(BAT GOOD表示を確認)して下さい。(その時にBAT GOOD以下に針が振れた場合は新しい電池に交換してください)その後、MODEをHIGHにしてハンドルについているTRIGGER(引き手)を引いてください(トリガーを引いた後は勝手に戻ります)そしてTUNERを回しハム音が少し聞こえるように調整してください。その後ループを腰位の高さに上げてコントロールパネル左側のAUTO GEBをAIR位置にして“ピー音”が鳴るまで待ってください。鳴ったら直ぐにループを地面まで下げてAUTO GEBをGND AUTO TRACに合わせ“ピー音”を鳴らせてください。以上で設定が完了です。

その後はループを左右にゆっくりふっていただき“ピー”が鳴りメーターに反応があれば金属に反応していると言うことです。

ループ別探知可能深度

対応深度(オプションの40cmループ):最大約150cmまでの探知が可能

“(標準の24cmループ):最大約80cm

深いところにある金属は小さな音で反応します。このような条件の場合はヘッドフォン(オプション)を使用することをお勧めします。

電池(バッテリー)

購入時には標準電池ホルダーに単3電池を8本入れた状態で供給されます。標準の使用で約20時間程度使用可能。もっと長時間使用したい場合はアルカリ乾電池の使用がお勧めです。それから電池の向きは電池ケースに書いてある向きどおりに入れてください。間違えますと回路が損傷します。その際は修理に時間を要しますのでご注意ください。充電式の単3電池の使用も可能です。充電時には電池ホルダーから外して充電してください。

Tuning & General Use

(チューニング、一般使用)

Preset:P

TUNERをP(プリセット)位置にしてAUTO GEB(オートマティック グランド エクスクルージョン バランス)を GND AUTO TRAC(グランド オートマティック トラッキング)にセットし MODEを HIGHにして下さい。この設定で殆どの環境での使用が可能です。しかし一般的な地質であってもファインチューニング(微調整)が必要な場合があります。まずプリセットポジションですが、これらは一般的な使用に向いています。実際に“P”ポジションでの使用はほとんどの環境で問題なく使用できます。

SIERRA MADREを使用すると自動的にグランドリジエクジョンを調整し機能を上げるように自動的に作動します。“P”ポジションでの使用がかなり効果的な結果を生むでしょう。

常にループを地面に近い状態で左右に動かしてください。右から左(またはその逆)まで約2秒程度で動かすのが理想的です。金属の場合は継続的な“ピー”という音がなりますので、なった上を何回か動かして掘るべき位置が定まったらゆっくりと“X”を描くようにその上を動かしてください。一番大きな音がしてメーターが一番ふれたところの下が目標物です。

Fine Tuning (ファインチューニング)

ファインチューニングのポイントはAUTO GEBスイッチと MODEコントロールの調整次第です。AUTO GEB(オートマティック グランド エクスクルージョン バランス)スイッチは地面の反応を調整します。

MODEコントロールは地面からの信号を調整しディテクターの電気回路が感知できるよう調整するためのものです。HIGHポジションは典型的な高無機地質にむいております。まれに低無機地質地域があり、これらの地域がMODEコントロールでのLOWセッティングでの探査に向いております。若しあなたが地質の無機質、有機質に対し不慣れな場合は常に“HIGH”で使用し“LOW”はもう少し経験が増えてから使用をすすめます。

ファインチューニングの方法

1. TUNERをBATにしてバッテリーがあるかどうか確認してください。
2. MODEをHIGHにしTRIGGERを引いてください。
3. ループを腰の位置にし、TUNERですこしハム音(ブーンという音)が出る位に設定してください。
4. AUTO GEBスイッチをAIRポジションにしディテクターの“ピーブ”音になるまで押さえておいてください。鳴ったら直ぐに地面位置まで下げAUTO GEBスイッチをGND AUTO TRACポジションにかえてください。ループをそのままにしディテクターの“ピーブ”音になるまで待ってください。
5. 若し、地質が無機質の場合はMODEをLOWにしTRIGGERを押さえて再度ステップ4(AUTO GEB)の設定をして下さい。もし地質が低無機質である事を間違えて設定した場合は信号が一定ではなく、感知もしないはずで、もしこの状態が起きた場合はHIGHポジションにかえてTRIGGERをひっぱりステップ4のAUTO GEBの設定を繰り返してください。そうすれば再度探知できる状態になります。もしLOWポジションでスムーズに感知する場合はそのままで使用ください。
6. 探知が始まったらループを左右に振る作業が非常に重要なポイントのひとつになります。左から右(またその逆)に動かす場合約1.5秒から2秒が最適です。最深の検知位置はループの中心ですのでループを動かす軌跡が50%程度オーバーラップしないと深い位置のターゲットを見逃す場合があります。ループを動かす場合に右端(左端)での軌跡は半円を描いてはいけません。ループを振っている間は地面に近づけて振ってください。
7. もししっかりした“ピーブ”音が聞こえたらそのポイントの上を大まかでも結構なので数回左右に振ってください。目的の金属の上に行ったらメーターも大きく振れます。目的の金属が浅い場合はまれにピンポイントが出来ない場合がありますので、その場合はループを少しあげてピンポイント作業をすれば正確度が増します。
8. ピンポイントと目的物を探す作業は練習を要します。場所にあった掘削用の道具を使用してください。
9. 物を探す場合、その土地の所有者に許可を貰ってください。ポイントを探すには図書館で資料を探したり、年よりの人に話を聞くのも良いかもしれません。もし誰かが既にそのポイントを探したとしてもがっかりせずに再度トライしてください。なぜなら総ての埋設物が発見されたとは限らないからです。砂浜などでは貴重品等は継続的に紛失されるでしょうし、以前見つからなかった場所でも砂とか土の変動が埋設物の発見を可能にするでしょう。

TUNER

TUNER:TUNERは使用中に継続的にハム音(ブーという音)が聞こえるように毎回セットして下さい。温度の変化、場所の違いによってもハム音を毎回調整しなければなりません。

A)TUNERのセット方法:ループを腰位の位置まで上げ、地面および金属から離して下さい。そしてTUNERのハム音が少しだけ聞こえる位置にセットして下さい。TUNERのセットは“P”位置の近くです。

B)サイレントサーチ:ハム音がセットできたらTUNERをすこしだけ(ー)位置の方に下げた状態で目標物が見つかるまで探して下さい。

AUTO GEB

AUTO GEBスイッチは地面からの反応を調整するのに使います。これによって無機質状態を無視しながら探知をすることが出来ます。AUTO GEBスイッチはLOCK位置であれば標準設定で使用できるし、AUTO TRACであれば地質に応じて自動的に調整をしながら探知をするように機能します。毎回使用する際にAUTO GEBの設定をすすめます。

A)AUTO GEBのセット方法:MODEをHIGHにし、TRIGGERを押して下さい。ループを腰位の位置にして地面、金属から離してTUNERをまわし、少しハム音が出る位置位まで回して下さい。その後AUTO GEBをAIRポジションにして“ピーブ”音が聞こえるまで待ってください。そのあとにループを地面まで下げてAUTO GEBスイッチをGND AUTO TRACポジションに下下さい。

B)GND AUTO TRAC は殆どの地質の変化に自動的に対応するのでおすすめです。この自動対応機能が継続的に性能を向上させます。

C)LOCK は人口的に作られた鉄分が多く捨てられた場所、または錆びた鉄分があたかも無機質状態と感知させるような場所に向いています。

TRIGGER SWITCH

TRIGGER スイッチはハンドルに付いており何種類かの違った目的に使われます。3種類の違った位置で使用出来、“中間位置 / センター”は通常の使用に向いています。

“ひいている位置”はモードを変えるのに使います。“前のロック状態”ではモード変更モード以外は“引っ張った位置”と同様です。

A)ピンポイントングの後のReset, Clearまたはチューニングについて:TRIGGERを引いている状態の場合はResetが解除が同時に機能します。マニュアルピンポイントング(ループが金属に近い状態でTRIGGERを引いたり離したりする時)をするとループの探知範囲を狭めます。これをデチューニングと言います。TRIGGERスイッチが引いてはなされるまでは(但し金属などからループを離しながら)ループの感知は狭い範囲で行われます。このリセットはループの感知範囲を最大にして機能させることが出来ます。

B)モード変更:TRIGGERを引っっぱなしにするか 又は前に押した状態にするで一時的に金属に対して継続的に反応するようになります。この状態を利用して金属に反応した場合のピンポイント作業に使用下さい。この状態では安定性に欠けるので一般探

知をするのは向いていません。

メーター

メーターは電池の強度のテストと金属の感知状態を視覚的に伝える為のものです。メーターと“ピーブ”音は同時に作動します。

40センチ ループ * オプション

オプションの40センチループは大きな埋設物をより深い探知深度で見つける事ができます。あまり効果が得られない場合は多分小さな目標物だからでしょう。大きなループを使って探知作業をする場合は通常より少しゆっくりめで動かしてください。

ヘッドフォン * オプション

Sierra Madreにヘッドフォンを使用した場合、電池の持ちをより長くします。また金属の反応をよりクリアーに伝えます。

トラブルの解決方法

下記を参照すればメタルデテクターに不必要な問題が発生しないで済むでしょう。

不自然で途切れがちな“ピーブ”音が発生した場合は外的に起因します。おもに高圧線とか高電圧発生装置などから原因が発生する場合があります。

- 1) HIGH MINERAL モードの設定: TRIGGERを引いてもどします。そしてAUTO GEBIにして下さい。
- 2) 途切れ途切れにシグナルが聞こえる場合は何キロか離れた場所に行き探知作業をして下さい。もし、妨害信号が多く入る場合は別な時間にまたやってみるのも一つでしょう。まれにそのような状況が決まった時間に生じることがあります。
- 3) 場所に関係無く問題が生ずる場合: デテクターが原因の場合もあります。電池ホルダーを機械から外して接点をきれいにふいてください。また 錆びがある場合はきれいに拭き取ってください。できたら別なループをつけてテストをして下さい。もし友達が似たループを持っている場合、それを付けてテストしてください。ループの問題は通常、配線の問題から生ずることが多いです。
- 4) 湿気によるトラブル: 極端な湿気は電気回路に問題を生ずることがあります。殆どの電気機器は湿度75%までの環境で使用するのが許容範囲でしょう。機器の電気回路がプラスチックでコーティングされているため、湿気によりそれが剥離することがあります。塩分と湿気が結みついた場合はかなり問題が生ずるでしょう。

- 5) もし湿気の多い場所で使用した場合、感想した暖かい場所においてください。また、電池ケースを本体からはずして電池ケースをあけて乾燥させてください。

注意事項

- 1) 水分は機械にダメージをあたえます。ループは防水ですがループからコントロールボックスとコントロールボックスは防水では在りません。霧雨程度であれば問題はないでしょう、しかしひどい雨や水中での使用は避けて下さい。
- 2) コントロールボックス外部を掃除するのはクレポリメイトなどが最適です。雨や浜辺で使ったあとは非常に腐食性がありますので特に掃除してください。
- 3) もしループを水中で使用した場合などはロッド(棒)に水が入っていますのでコントロールボックスより上に上げると水がボックスにはいって故障の原因となりますのでご注意下さい。
- 4) 熱や極端に寒い場所はデテクターに影響を与えます。若し使わない場合は日陰に置いてください。自動車のなかに置く場合は直接日光にあたらないようにして下さい。逆に零下温度下においた場合も問題がでます。
- 5) 使用の際は常識をもって使用下さい。重いものを乗せたり、乱暴に使ったりしない様にして下さい。もし使用しない場合は他の精密機械と同じようにデリケートな取り扱いをして下さい。